

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成27年10月7日

施設名	牧野植物園	所管課室	林業振興・環境部 環境共生課
-----	-------	------	----------------

1 施設の概要

指定管理者名	(公財)高知県牧野記念財団	指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日
施設所在地	高知市五台山4200番地6		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・植物園の設置の目的※を達成するための事業の企画及び運営に関する業務 ・植物園の利用の許可、撮影の許可、許可の取消し等に関する業務 ・植物園の利用料金の收受、減免、還付その他の利用料金の徴収に関する業務 ・植物園の施設、設備等の維持管理に関する業務 <p>※『牧野富太郎博士の偉業を顕彰し、植物研究を通じて、教育文化の向上及び産業振興に寄与するとともに、土佐寒蘭の保護及び知識の普及を図り、県民に対し、憩いの場を提供する』 (高知県立牧野植物園の設置及び管理に関する条例第1条)</p>		
施設内容	<p>○ 面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など</p> <p><植物園面積> 約18.2ha(うち約6haを供用)、駐車場(普通車など195台、バスなど8台) <主要施設> 牧野富太郎記念館(本館、展示館)、回廊、温室、資源植物研究センター、土佐寒蘭センター、長江圃場、レストラン、ショップ、カフェなど <開園時間> 午前9時～午後5時 <休園日> 12月27日～1月1日 <主な料金> 入園料/一般720円(高校生以下無料)、団体620円(20名以上)、年間入園券2,880円、高知県長寿手帳保持者等は無料 施設利用料(1時間当たり)/映像ホール1,440～1,850円、アトリエ実習室510～620円など 撮影料/業として行う写真の撮影:撮影者1人当たり日額1,840円、業として行う映画の撮影:撮影機1台当たり1時間3,700円</p>		
職員体制	常勤職員: 12人 契約職員: 31人 合計: 43人		

「職員数は、平成26年4月1現在(常勤役員2名を常勤職員に含む)」

2 収支の状況

単位:千円

		25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(予算)
収入	県支出金	325,884	350,873	351,106
	使用料・手数料	56,375	52,025	73,794
	その他	6,412	6,372	3,600
	収入計 (a)	388,671	409,270	428,500
支出	事業費	69,736	70,672	71,430
	管理運営費	145,569	165,500	170,110
	人件費	172,714	172,779	186,940
	その他	652	319	20
	支出計 (b)	388,671	409,270	428,500

3 利用状況

	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)
①年間利用者数(単位:人)	146,019	137,111	180,000
②利用者意見等の反映	○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等) ・イベント時や教室開催時にはアンケートを設置し、要望を把握している。アンケート結果は、適宜職員に周知し、次回の対応(HP、リーフレット、イベント案内、園内の表示・案内板等)に反映している。		
③その他特記事項	・平成26年度は、これまで春に開催していた五台山花絵巻を竹林寺のご開帳に併せて秋に初めて開催、竹林寺と連携した共通セット券を販売した。また花絵巻に併せてサイドイベントや展示、教室等を開催することにより、10月、11月期では、過去3年間で最高の入園者数を確保した。 ・その他、桜の開花時期に合わせた夜イベント「桜の宵」や、許可栽培が必要である「ケシ」の栽培展示を行うなど、新たな取り組みにチャレンジをすることで誘客につながった。 ・全体としては、GW中の車両通行規制や悪天候による休園などの要因もあり、入園者数は対前年度比93.9%にとどまった。		

4 平成26年度業務評価

項 目	状 況 説 明
①適正な管理運営の確保	・法令順守、利用料金の徴収に関する業務、施設の利用及び撮影の許可に関する業務、施設管理、情報管理などについて、公の施設として適正な管理運営が行われている。
②利用者サービスの維持向上	・ベビーカー、車イスに加えてシルバーカーの貸出等、来園者にとって利用しやすい管理運営に努めている。 ・外部で行われる接遇セミナー等に参加するほか、財団内部でも情報共有や勉強会を実施している。 ・常設展示等のリニューアルに着手し、新たな展示物を製作するなど魅力アップを図った。 ・中央公園で行われた”もくもくランド”に牧野植物園ブースを出店し、園外でも活動の告知や薬用植物の重要性を普及した。
③事業実績	・園地管理では、外部団体の協力を得るなど、展示の充実につなげた。 ・植物管理においては、台湾産野生ツツジの育成に取り組み、学術・鑑賞価値の高い独自の植物コレクションを見せる準備を進めるとともに、土佐寒欄センターの展示の充実も図った。 ・基礎研究分野では、分類、生態学、有用植物学研究を推進し、学術発表や学会発表を行った(12論文、学会発表6など)。標本数は1年間で10,028点増加し、総数262,136点と充実を見ている。 ・薬用植物研究では、ホソバオケラの試験栽培を実施し適正条件の検証を行った。また、シヤクヤクでは、県内農家への試験委託栽培を行うなど新たな取り組みに着手した。ミャンマー産植物は代替生薬としての可能性調査を継続して行うなど、中山間地域における産業振興に向けた研究調査を実施している。
④収支の状況	・利用料金収入は、52,025千円と対前年度比92.3%となったが、各団体との共催イベントの開催や物品等購入時の相見積もりの導入等により経費の節減に努めている。
総合評価	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県の主要な観光・学術施設としてその振興に寄与できている。今後は関係機関や竹林寺をはじめとした地域との連携のもとさらなる魅力アップを望む。 ・さらなる誘客に向けて、毎月行っている県内外客の状況把握のためのアンケートを通年実施するなど、利用者の状況把握を継続する必要がある。 ・ボランティアを積極的に活用できるよう、研修を行うなど、ノウハウを積み重ね、質を向上するための体制が必要である。 ・植物の素晴らしさを入園者に知っていただくため、園芸、広報を通じて見せ方の工夫を行うとともに、職員及びボランティア等の園芸普及・環境教育、パートナーシップに携わることができる人材の育成や環境貢献を評価し、関心のある企業・団体からの資金援助等につなげられる展開を期待する。 ・植物研究、教育普及については高度な技術をもって、植物園全体のレベルアップに貢献するとともに、薬用植物については、次期5年間で新たな展望を期待する。

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 B: おおむね仕様書の内容とおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの